

# そ の 他 資 料

現在の分別区分（平成 23 年 10 月以降 11 種分別）

家庭系一般廃棄物

種 類	品 目
焼却ごみ類	台所ごみ、紙、木、竹、衣類、ゴム製品など
古紙類	新聞、雑誌、雑紙、段ボールなど
プラスチック製容器類	プラスチック製容器、ポリ袋、シャンプー容器、レジ袋など
ペットボトル類	水・茶・清涼飲料水のペットボトル
空き缶類	空き缶、缶詰の缶、スプレーの缶など
飲・食料用ガラスびん類	食品用のガラスびん、内服用の薬品びん
破碎ごみ類	炊飯器、ポット、電話機、安全かみそり、鍋、フライパンなど
陶器・ガラス類	化粧品・薬品のびん、ガラス食器製品、電球など
乾電池	乾電池
蛍光管	蛍光管
粗大ごみ	タンス、ベッド、自転車、布団など

事業系一般廃棄物

種 類	品 目
焼却ごみ類	紙類、生ごみなど
粗大ごみ	可燃系の粗大ごみ

注： 事業活動で発生する古紙類については、資源ごみとして市の処理施設以外で処理されており、市の処理施設では受け入れていない。

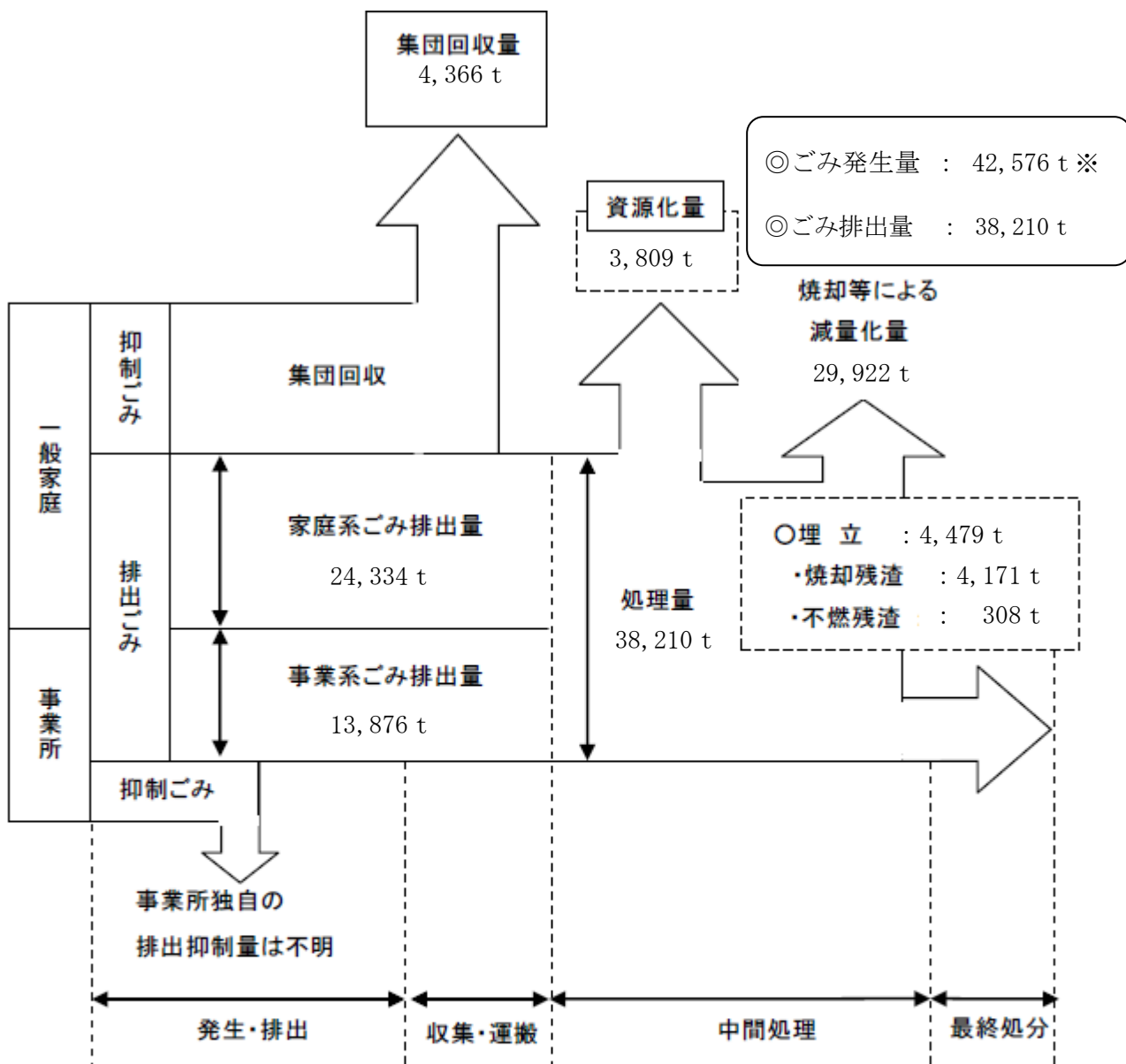
また、事業活動で発生するプラスチック製容器類、ペットボトル類、空き缶類、飲・食料用ガラスびん類、破碎ごみ類、陶器・ガラス類、乾電池、蛍光管については産業廃棄物に該当し、市の処理施設では受け入れていない。

平成 26 年度ごみの分別区分の割合

分別区分	家庭系ごみ		事業系ごみ		家庭系+事業系	
	排出量	割合	排出量	割合	排出量	割合
焼却ごみ	19,555.72t	80.37%	13,864.04t	99.91%	33,419.76t	87.46%
プラスチック製容器	1,071.33t	4.40%	—	—	1,071.33t	2.80%
ペットボトル	270.08t	1.11%	—	—	270.08t	0.71%
空き缶	229.07t	0.94%	—	—	229.07t	0.60%
飲・食料用ガラスびん	836.37t	3.44%	—	—	836.37t	2.19%
破碎ごみ	447.18t	1.84%	—	—	447.18t	1.17%
陶器・ガラス	267.96t	1.10%	—	—	267.96t	0.70%
新聞・広告	503.82t	2.07%	—	—	503.82t	1.32%
雑誌・雑紙	449.19t	1.85%	—	—	449.19t	1.18%
段ボール	338.26t	1.39%	—	—	338.26t	0.89%
乾電池	22.06t	0.09%	—	—	22.06t	0.06%
蛍光管	11.59t	0.05%	—	—	11.59t	0.03%
粗大ごみ	330.85t	1.36%	12.02t	0.09%	342.87t	0.90%
合計	24,333.48t	100.00%	13,876.06t	100.00%	38,209.54t	100.00%

出典：平成 26 年度クリーンセンター年間報告書

ごみ減量化・資源化とごみ処理の流れ（平成 26 年度） 【小数点以下を四捨五入して表示】



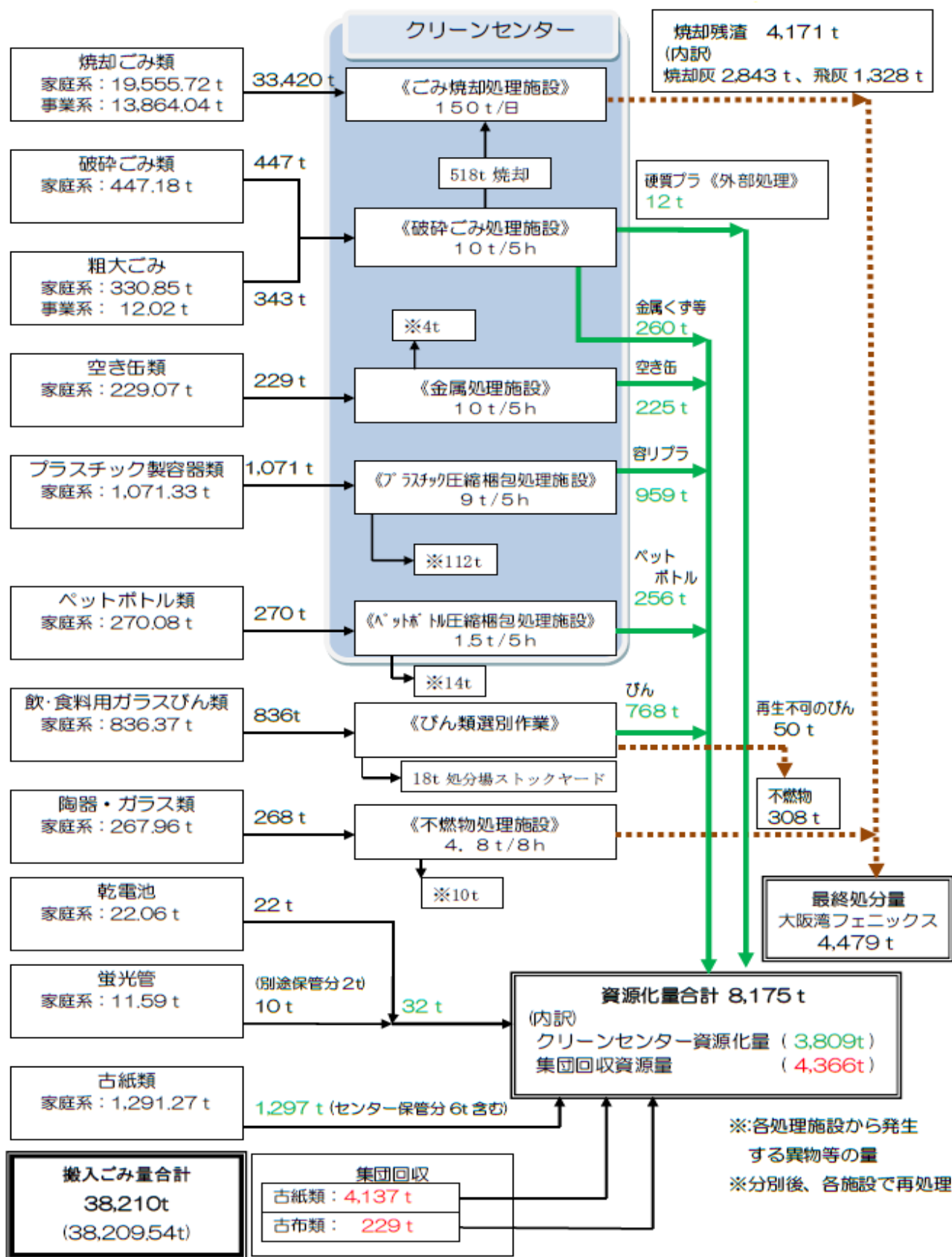
ごみ量の定義

ごみ排出量 = 家庭系ごみ排出量 + 事業系ごみ排出量

ごみ発生量 = ごみ排出量 + 集団回収量

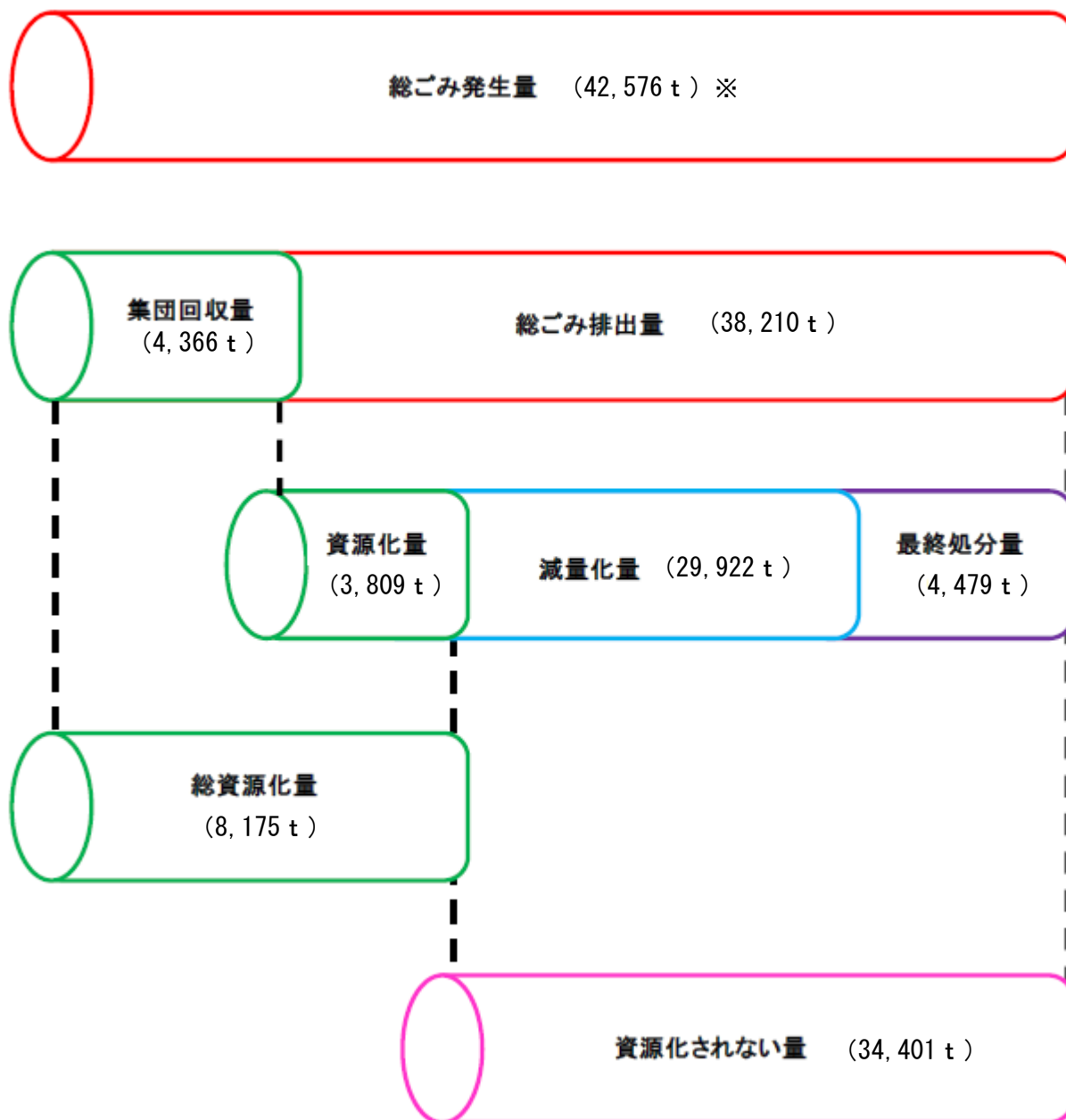
※実際の総ごみ発生量は 42,575.30 t で四捨五入すると 42,575 t になりますが、ごみ処理の流れをわかりやすく表示するため、この図では他のごみ量等の四捨五入後の合計量である 42,576 t で表示しています。

ごみ処理フロー図（平成 26 年度） 【小数点以下を四捨五入して表示】



<参考> 図 3-1-14 ごみ処理フロー図（平成 20 年度） 【計画 P. 24】

一般廃棄物の処理の概念図（平成 26 年度実績） 【小数点以下を四捨五入して表示】



※実際の総ごみ発生量は 42,575.30 t で四捨五入すると 42,575 t になりますが、ごみ処理の概念をわかりやすく表示するため、この図では他のごみ量等の四捨五入後の合計量である 42,576 t で表示しています。